

セクシュアリティは、食事・睡眠・休養などと同様に、人間の基本的欲求であり、その人を支える健康の基盤となるものである。人間の性は、人間に本来備わっている人権であり、生きる喜び、生きる意欲を支えるものである。

患者のQOLを高めるためには、看護師のセクシュアリティへの理解が不可欠であり、その理解の上で患者のセクシュアルヘルスを支援することが重要といえる。HIV 陽性者の80%以上が性行為による感染であり、感染予防行動への支援は患者の健康維持やパートナーへの感染防止からも重要な支援である。

性生活への支援

医療者が性に関する相談・対応することは役割のひとつであることを患者に伝える。患者からの相談を待つのではなく、正確な情報を医療者側から早期に提供すること、相談を受けたら一緒に内容を整理すること、患者と情報共有し共に考える姿勢が効果的な支援につながる。

感染経路や性感染症予防について正確な知識を医療者と患者の両者が持つことが重要である。HIV の治療を継続し血中のウイルス量が200 コピー /mL 未満を6か月以上維持している場合は（Undetectable：検出限界未満）、他の人に性行為で HIV 感染することはない（Untransmittable：HIV 感染しない）報告もある（U = U）。患者や配偶者、パートナーと共に、性感染症予防行動について考えていけるように繰り返し支援していく。

①セーファーセックスについて

患者の性生活に応じて、2次感染予防行動が確実に継続できるように、感染経路や感染リスクの高い行為、具体的な予防方法など性に関する話ができる場を設ける。HIV 感染を他者にさせないことも重要だが、患者自身が新たな性感染症に罹患しないことも重要な視点である。患者が感染予防行動を考え、自ら行動出来るよう支援することが重要である。感染予防の基本はセーファーセックスといわれ、コンドームの使用はひとつの方法である。また、治療を継続し血中のウイルス量を検出限界以下に抑え続けることで、他者への HIV 感染リスクをなくすことも予防のひとつである。

- ・コンドームを確実に使用できるよう、保管方法・装着時の注意・使用後の処理等は具体的に説明する。
- ・性行為の種類（膣性交・肛門性交・フェラチオ・クニニリングス・リミング）に応じた感染予防方法・注意点の説明をする。
- ・性行為を振り返り、感染リスクに気がつけるよう支援し、感染リスクを低減する行動が具体的に考えられ、実践できているか評価する。
- ・性行為により、HIV 以外の性感染症や、HBV、HCV、HIV 薬剤耐性ウイルスなどに感染する可能性がある。今後の治療に影響を及ぼすため、セーファーセックスの支援を継続する。
- ・抗HIV薬の服薬アドヒランスを維持していくことが感染予防につながることを説明する。

②家族計画について

家族計画は、妊娠・避妊を含めて説明する。育児希望の有無は、パートナーと相談し人生設計していけるよう支援し、必要な情報提供をしていく。

- ・HIV 陽性者が男性の場合、女性の場合、両者が感染している場合の対応について情報提供する。
- ・HIV 陽性者の生殖補助医療（人工授精や体外受精など）について最新情報を確認し情報提供する。
- ・セクシュアリティに関わらず家族計画、育児希望については確認する場を設ける。